

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第17号 (2008・8)
事務局川西地区自主防災会

今回「大地のつぶやき」として原稿を寄せていただいた兵庫商会の田中保三さんは、平成7年1月17日阪神大震災が発生するまでは、自動車部品販売会社の経営者として、順調な日々を送っていました。

神戸市長田区御蔵通りで128名の尊い命が失われ、その震災の復興をと、まちづくり協議会（コミュニティ組織）を立上りました。学生さんたちで組織したまち・コミュニケーションとも連携を強化し、主権在民、地域自立型のまちづくりを願い、会社の経営資源も大きく投入・・・順風満ぶうに見えたのですが。

神戸の復興も落ち着きを取り戻し、市民の気持ちに安ど感。そこから古い体質がむき出しになったのでしょうか。

1年10か月ほど前に、まちづくり協議会は解散を余儀なくされました。

その主役を演じておりました田中さんの「大地のつぶやき」を聞いていただきたいと思います。（川西地区自主防災会 岩崎正朔）



「田中氏の写真は
毎日新聞提供」



御蔵学校に参加して「（復興）
まちづくりを考える」

古民家移築の集会所での撮影



大地のつぶやき

～ 「まち協解散の顛末記」その後（Ⅱ） ～

二〇〇八年四月六日に、自治会総会が開かれた。だが件の撤去問題は進言したにも関わらず、議題に上らなかった。

過去十二年余まちづくりの活動は、まち協役員とまち・コミは手を携えて、行政を当てにしないで小さくとも独自の長をもつて自ら実践を通して来た。



「毎日新聞提供」

自分たちのまちを住んで楽しいまちに、を目指して、互いに汗をかき続けようと、各種のイベントは言うに及ばず、共同住宅の研究をし、みくら5として完成させた。

その一角プラザ5を実験場にふれあい喫茶、食事会、ミニデイ、パソコン教室、絵てがみ教室を開いて、場所は変わっても今尚存続している。

古民家移築の集会所も完成させた。古民家では、河内音頭のプロデューサー橋本正樹さんの応援を頂き、御蔵百聞くらぶと銘打って、多くの文化人（赤テントの唐十郎さんと九鬼葉子さんのトークショーを皮切りに、河内音頭の鉄砲光丸さんと橋本さんによる音頭の起源と踊りの実演、版画家の岩田健三郎さん、カメラマンからカワラマンの山田脩二さん、作詞家のもず唱平さん、精神科医の中井久夫さん、在ブラジルの丹下セツ子さんによる当地の大衆演劇、おはようパーソナリティの道上洋三さん）をお招きし、また歌手の李浩麗さんによる唱歌と叙情歌の会は十数回を数え、それぞれによる新たなる発見に、楽しいひとときを過ごした。

共同住宅と古民家移築の二つのハードと、それに係るソフトの数々は、まち・コミと一部住民のボランティア精神なしには、到底不可能であった。こりゃおもしろいと思ったら即実行に移す。ネットワークをフル活用して共鳴してもらおう。まちづくり運動は終わりが無い。

まち協はなくなったが、まちづくりは動いている。お金はないが、頭と身体を使って汗をかき合う。

今、まちがギクシャクしているのはまちの形成として、最初にまちがあってそこに人が住む都市計画に依ったことにある様な気がする。

先ず人がいて次第に集まりが出来、まちが形成される。大切なのは中身の人間だ。如何に楽しく、住んで面白いかを追求したいと今でも思っている。

株式会社兵庫商会 田中保三

香川県民防災週間2008シンポジウム

「子どもとはじめる防災対策」7月15日（火）に開催

毎年7月15日から21日までの1週間は、条例で定める「県民防災週間」。この初日の15日にシンポジウムが開催され、福和伸夫名古屋大学大学院環境学研究科教授による「こどものときからはじめる防災対策」の基調講演があった。

政府の中央防災会議で当時の小泉首相を前に行った耐震実験教材「ぶるる」の実演も交え大規模地震への備えと、将来を担う子供たちに生きる力を授ける防災教育について熱く語られた。

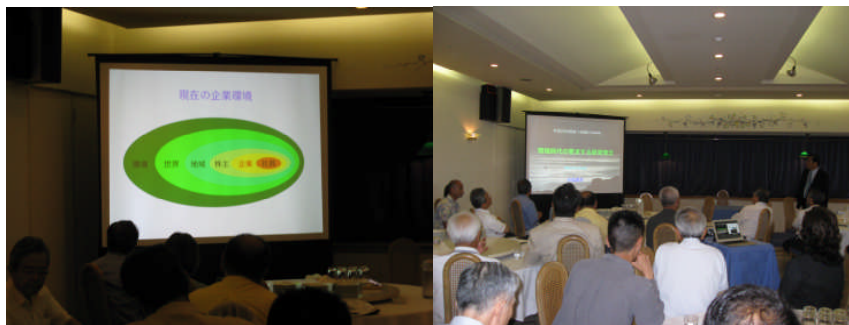


お知らせ

1. 本年度かがわ自主ぼう研修会は10月11日（土）14時から、丸亀市川西町南307番地「サンビレッジ土器川」に於いて、前総務省消防研究センター所長で関西学院大学総合政策学部室崎益輝教授による講演を予定しています。当日の夕方、土器川いも炊き大会もあり、研修終了後に試食コーナーも設ける予定です。次号に参加案内を掲載します。



2. 昨年7月21日に第1回かがわ自主ぼう研修会で、記念講演をしていただきました東大名誉教授月尾嘉男氏が塾長をしています瀬戸内海塾を11月27日（木）の夜、高松にて開催予定です。詳細が決まり次第皆様にご案内します。



7月26日の瀬戸内海塾の様様